

道徳学習指導案

平成18年11月2日(金) 5校時
仙台市立広瀬小学校 6年
指導者 教諭 熊谷 敬子

- 1 主題名 あなたに伝えたい
資料 自作資料「心のかけ橋」 2 - (2) 思いやり

2 主題設定の理由

(1) 価値について

内容項目2 - (2)は思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にすることとある。高学年は、どのように対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められている。自分の考えや思いが正しく感じ、相手のことをよく考えずに行動してしまうことや言葉が足りないために誤解されたりなどの問題が起きる時期でもある。自分の思いを言葉にして相手にきちんと伝える日常の指導が大切であり、相手の立場を考えることを指導していく必要がある。また、どのように対処することが相手のためになるのかなどを考え、親切にしていこうとする心情を育てていくことが必要だと考えた。

(2) 研究との関連

情報モラルの指導にあたっては、必要なルールをしっかり理解させるとともに、ネットワーク上の相手を思いやって行動しようとする意識をもたせることが重要である。そのためには、まず、ネットワークを活用したコミュニケーションを体験させ、その特性を理解させる必要がある。

そこで、ネットワークの体験を取り入れた単元を構想することにした。電子メールのやり取りを通して、ネットワークの特性を理解させるとともに、その良さや問題点についても考えさせたい。

その後、道徳の時間を設定し、相手を思いやって行動することについて話し合わせることにした。そのことで、子どもたちは、ネットワークで起こる問題と日常生活で経験している問題とを重ね合わせて考えるだろう。そして、ネットワークの問題を自分自身の問題としてとらえ、話し合うことができるだろうと考えた。

道徳の資料については、昨年度、小学校中学年向けのものを作成している。コンピュータの電子メールを題材として扱い、友達と1対1の関係性を持つ内容であった。今年度は、6年で授業するため、高学年向けの自作資料を開発することにした。携帯電話のメールを扱い、1対複数の関係性を持つ内容で、中学年から高学年への系統性を考えた資料とした。

以上のことから、研究主題である、相手を思いやる心をはぐくむことができると考えた。

(3) 児童について

男女協力して行動ができる仲のよいクラスである。たとえばグループでの活動で、だれか一人の行動が遅く迷惑をかけたとしてもそれを責めるようなことはしない。しかし、掃除の時間で「早く帰りたい」などの自分の感情が働くときは、グループ活動がうまくできない様子もまだ見られ、相手のことを考える気持ちになれないときがあるように思える。けんかのようなトラブルになってから、相手を思いやることができなかつたと反省する姿があった。どんなときも相手を思って行動し、だれにでも親切にしていきたいという気持ちをはぐくみたい。

【情報コミュニケーションに関する実態】

パソコンを使つての調べ学習は全員ができる。掲示板などの利用については興味をもっている児童は少ない。危険なサイトに対しての意識も強く、「危ないことはしたくない」、「クリックしないようにしている」と多くの児童が思っている。

しかし、電子メールについては約38%の児童は体験があり、日常的にメールのやりとりをしている。今のところ、そのメールの内容での問題はないけれども「悪口をメールに書く」ことで相手を傷つけることやメールは「心のかけ橋」で相手に素直に気持ちを伝えられる大事な言葉だという意識をさせたい。

(4) 資料について

本時の資料は、携帯メールの問題を通して相手を思いやって対処することが大切なのだという心情を養うための自作資料である。

資料の内容は次のとおりである。

花子が掃除は遅れたことをあきこにきつく注意される。その夜、言い返すことができない花子は友達のりかにあきこにいじめられたと携帯メールを送る。次の日、花子は学校を休み、それがあきこのせいだとりかが友達に言う。それを知ったあきこは花子にどうしたらいいか悩む。そして、花子の家に謝りに行く。そこで花子とあきこのしこりが取れ、互いにメールを交換し、気持ちを伝え合うことができるようになる。次の日、教室には笑顔でおしゃべりする3人の姿があるという話である。

資料から、子どもたちは感情的にメールを書いてしまう危険性に気付くと考えられる。そこから相手の気持ちをよく思いやりの心をもって行動しようとする心情をはぐくみたい。

(5)指導の方向

総合的な学習の時間において、電子メールを体験させ、その楽しさを味わわせたり、問題点を話し合ったりして、長所や短所についても考えさせておく。

本時導入では、電子メールの長所や短所について想起させ、価値への方向付けを図る。

展開の前段では、話の内容をパワーポイントを使って、読み聞かせスタイルで提示していく。画面には掃除に遅れて花子があきこに怒られているところや友達にメールを書く気持ちがわかるような絵をスクリーンに映しだして子どもたちが共感したり考えたりしやすい状況を作る。感情的に携帯メールを使って、相手の悪口を送信することから事件が始まり、花子自身も困っていく場面やあきこが花子に何をしてあげればいいのかについて考える場面を中心に話し合う。子どもたちに「どう行動することが本当に相手の立場に立った思いやりなのか」考えさせていく。

後段では相手を思いやることが友情につながることに気付くように発問を問いかける。また、終末では「心のノート」を使って自分の思ったことを書いていくようにする。そのページには「相手のことを考えて気持ちを表す」などの表現がある。それによって、思いやりの心のあたたかさを感じて終わるようにしたい。

3 ねらい

(道徳の時間のねらい)

相手の立場になって、どのように対処することが相手のためになるのかを考え行動しようとする心情を育てる。

(情報教育のねらい)

相手の気持ちを考えて、情報を発信することの大切さを理解させる。

4 道徳の時間を中心にした単元構想

単元構想 『あなたに伝えたい ~ ネット・携帯社会と共に ~』

時間	領域	ねらい	学習内容
第一時	総合的な学習	・メール機能をPC教室で体験することによって、メールによって伝えるいい面と危ない面があることに気付かせる。	・友達とメールのやりとりを実際に体験する。感じたメールのよさや、疑問に思ったことを話し合う。
第二時	総合的な学習	・突然起きるトラブルの対処について知り、どう行動していけばいいのか考えさせる。	・ネットや携帯電話での実際のトラブルについて話し合う。また、さまざまなトラブルを提示し、小グループで対処を話し合う。
第三時	道徳本時 思いやり 内容 2 (2)	【道徳の時間のねらい】 相手の立場になって、どのように対処することが相手のためになるのかを考えようとする心情を育てる。 【情報教育のねらい】 相手のことを考えて、情報を発信することの大切さがわかる。	・資料を通して、安易に行動することや携帯メールの扱い方によって相手を傷つけたり、悲しませたりすることに話し合いを通して気付く。 ・相手を思いやる行動について考える。 ・心のノートを使い、自分の行動を振り返り、これからどう行動するのがいいのか考える。
第四時	総合的な学習	インターネットで調べるときの様子について考え、話し合う。ネットや携帯とどう向き合っていくか考える。	・メールのよさや問題点について話し合う。 ・自分はネットや携帯に携わるときにどんなことを意識していくか考える。

5 資料 自作資料「心のかけ橋」 (別紙)

6 指導過程

段階	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点と教師の支援
導 入	1 メールのやり取りを振り返り，思ったことを話し合う。	・ 体験を想起しやすいよう写真を提示する。
展 開	2 資料 ~ を聞いて考える。 (1) 話を聞いて内容をとらえる。 (2) なぜ，花子は悪口をメールに書いたのかを考え，意見を出し合う。 3 資料 ~ を聞いて考え，話し合う。 (1) あき子は，自分のせいで花子が休んだことを知る。あき子がどうしたらいいか，どんな行動したらいいかについて考え，話し合う。 (2) あき子はどんな気持ちなのかワークシートに書いてから話し合う。(中心発問)	・ 紙芝居(パワーポイント)を見ながら，内容を確認して，子どもたちの中でメールを使っていない子にも分かりやすいように状況を補足する。 ・ 書く活動を取り入れ，一人一人がどのように考えているかを把握する。 ・ 相手を思い，行動しようとする気持ちを考えさせたい。 ・ 短冊に書く時間があれば，書かせる。
開	4 資料 ~ を聞いて，たずねてきたあき子の真意が分かったときの花子の気持ちについて話し合う。 5 あき子は花ちゃんにどんなメールを送ったかを考え，話し合う。 6 3人が笑う絵を見て，思ったことを話し，聴き合う。 7 「心のノート」P41を読む。 8 「心のノート」P41から42までの教師の範読を聞く。	・ 「たずねていく」という行動にメールでは伝わらないよさがあることに気付かせる。
終 末	9 教師の説話を聞く。	・ 子どもたちの，互いの手紙のやりとりなどを例に出す。

7 評価

(道徳の時間のねらいに関して)

相手の立場になって，どのように対処することが相手のためになるのかを考え行動しようとする心情が育ったか。

(情報教育のねらいに関して)

相手のことを考えて，情報を発信する大切さが理解できたか。

8 資料分析

資料名「心のかげ橋」

